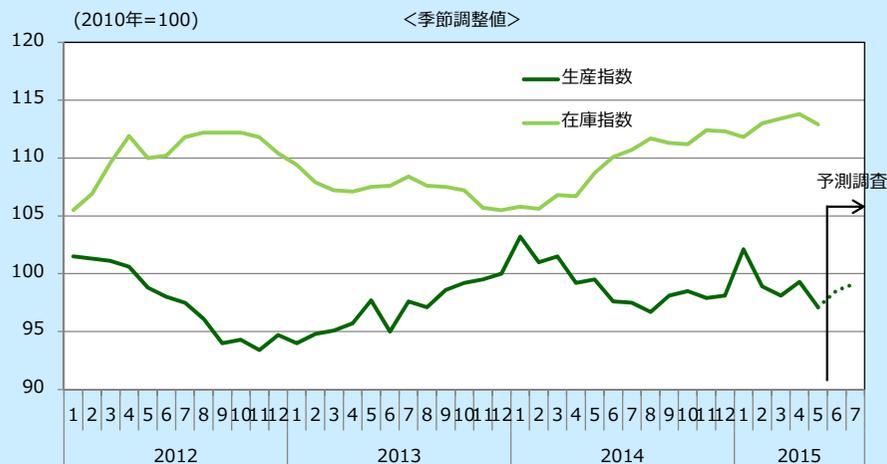


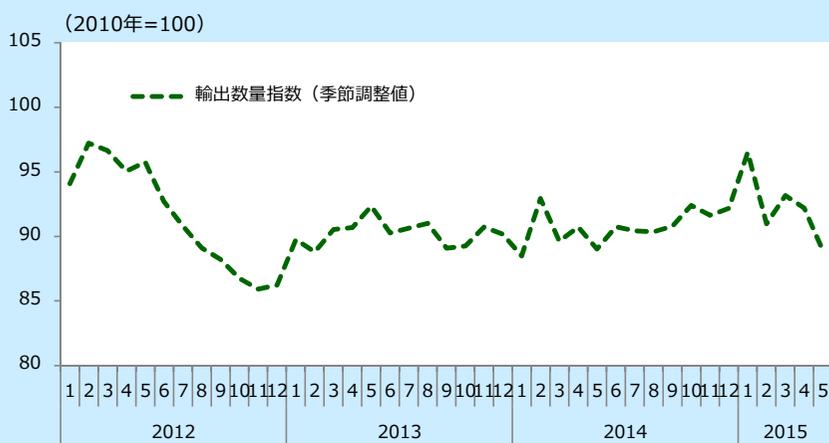
日本：鉱工業生産指数（2015年5月）

MRI Daily Economic Points
June 29, 2015

図表 鉱工業生産／在庫指数



図表 輸出数量指数



評価ポイント

2015年5月の結果

- 2015年5月の鉱工業生産指数(速報)は、季調済前月比▲2.2%と2ヵ月振りの低下となった。14年末頃にかけて一旦は持ち直しの動きをみせたが、その後は緩やかな低下傾向にある。
- 生産低下の背景には、輸出の減少がある。中国の構造調整に伴う成長減速などから、中国・ASEAN向けの輸出が減少。アジア向け輸出ウエイトの大きい、はん用・生産用・業務用機械、化学工業、電子部品・デバイス工業などが軒並み減少した。
- 内需面では、企業の設備投資意欲の強まりは好材料だが、15年4月の軽自動車税引上げの影響から軽自動車の販売台数が前年比▲20%程度のマイナスとなっており、輸送機械工業では生産調整圧力が強まった模様。
- 在庫指数は前月比▲0.8%と4ヶ月振りに低下したが、高止まりの状況が続いている。耐久消費財の在庫削減は進んだ一方、中国向けの輸出減少などを受けて、投資財の在庫水準が急上昇している。
- 製造工業生産予測調査によると、6月(前月比+1.5%)、7月(同+0.6%)と上昇を予測。輸送機械工業も5月をボトムに生産が上向き見通し。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、消費や設備投資の回復、米国向け輸出の堅調を背景に持ち直しつつあったが、15年入り後はアジア経済の減速もあり、弱含んでいる。
- 先行きは、アジア向け輸出低調の長期化が懸念材料だが、国内面では耐久消費財の在庫調整が進展しており、企業の設備投資姿勢も積極化。雇用・所得環境の改善による内需の回復持続などを背景に、基調としては緩やかな回復を見込む。